

# 高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報  
編集人 田村佐起三

〒604-1800-1  
京都市中京区木屋町通三条上ル  
電話 (075) 222-1188  
弊NPOは「憲法を改正、経済力と軍事力の両面で健全な国体を支える国家」を求めます。

## 《集団の問題点？ 仏教に照らし》

昨今集団の問題が彷彿し世間を騒がせています。企業や地域社会、スポーツの世界迄、あらゆる集団の理屈理論が通用しない時代を迎えています。組合や協会、地域社会の集団など戦後復興時にはその役割は大きく、貢献されたと思います。

然し、復興を終了し繁栄の時代には集団は相応しくなく、集団は単に隠れ蓑になったり個人の横暴を拡大させたり、特に農協は農業や酪農など他国との競争について行けなくなるなど、またスポーツ界に於いても不祥事が相次ぎ、学園学業の聖域にも及んでいます。

何故集団は問題になるのか？それは個人なら自己制御出来る事が、集団の利益を訴求すると個人の良心は歯止めが効かなくなるからです。また集団なら個人訴求が出来難くなっているからです。他国の様に個人責任訴求を徹底すべきと考えます。

## 《南座十一月公演》 十一月一日〜二十五日

発祥四百年を迎えた南座。松竹は耐震改修のため休館していた南座を十一月に再開場し、松本幸四郎家の襲名披露公演を開催します。

『新開場の南座で最初の公演に出させていた。』ととてもご縁を感じていますと幸四郎。というのも平成三年十一月の南座新装開場記念でも『勸進帳』の四天王で南座初お目見得を果たしており、幸四郎が初めて復活狂言にかかわった『小笠原騒動』続く『木下蔭真砂白浪』も南座。そして『傾奇おどり、創作舞踊も南座が最初でした』。幸四郎にとっては縁の深さを感じずにはいられない場所、それが南座です。

南座は昭和四年の建築で国の登録有形文化財に指定されており改修では伝統的な外観や内装は維持・保存し、舞台装置や客席が一新されました。

## 私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《分断されるアメリカ/S・ハンチントン著》

中間選挙間近トランプを選んだアメリカの今③ 移民大国である米国は「アメリカの信条」によって過去数世紀の間、国民の絆を保ってきた。それは英語キリスト教、法の支配、個人の権利、勤労を善とする労働倫理等アングロ・プロテスタントの価値観であった。かつての移民達はその価値観を認め、英語を学び出身国との絆を断ち切ってアメリカ社会に同化していった。しかし現在、非合法を含む大量のヒスパニック系移民は英語を学ばず、アングロ・プロテスタントの価値観に馴染まず、母国の習慣で暮らしており米国内に大きな分断を生み出し、状況は深刻である。

筆者は今一度「アメリカの信条」に基づいた価値観で米国を統合すべきだと力説する。これはトランプ大統領の目指す合衆国の姿に致する。これもトランプ大統領。日本も移民の大量受け入れは慎重でなければならぬ。そして我國の文化、言語、歴史を大切に社会の安定を目指さねばならない。

## 土口哲光和尚の説法

《健康で長生きができますように》

医療の発達や生活水準が高まって、日本は平均寿命が伸びる。そこで、単に長生きするだけでなく「健康寿命」をいかに延ばすかが課題になってきている。私はガンで胃を全摘して以来、腸に胃の役目を掛けているので、腸内への関心が強い。そこで、腸内細菌の権威者の藤田紘一郎東京医科歯科大学名誉教授の学習を受講。同教授は東洋の思想にある「山川草木悉皆成仏」を使われる。35億年前まで、地球上の生物には脳は存在せず腸だけしかなかったという。だから基本的には腸がしっかりしていることが健康維持の重要な要素だと説く。山川草木に親しみ、自然・大地に心を寄せる。免疫系の7割は体、3割は心にある。よく笑い、前向きな考え方で健康長寿を保つ幸せを。

## 季節の家庭料理 田村 真紀

《十一月 蕪と生姜のスープ》

蕪は消化酵素の一種のアミラーゼを含み、胃もたれや胸焼けを解消し、生姜は体を温めます。《作り方・四本分》

小蕪二個・玉ねぎ半個・生姜十グラム・水二カップ・牛乳一カップ・塩、サラダ油適宜  
蕪の皮をむき四つ切りにし五ミリ厚に切る。生姜・玉ねぎは皮をむき薄切りにする。鍋に油を入れ弱火で熱し、たまねぎと塩一つまみを入れゆつくり炒める。玉ねぎが透き通ってきたら蕪と生姜を入れ塩を少量足し、さらにじつくり炒める。蕪が透き通ってきたら水を加え、沸騰してきたらあくを取り弱火で十五分煮込む。蕪に火が通ったら火を止め粗熱を取りミキサーにかける。鍋に移し牛乳を加えゆつくり火を通し、塩で味を調える。

## つれづれの記 山崎 辰巳

《政治は勝ち負けではない》

先の自民党総裁選の投票直前、安倍晋三首相を支持する陣営の「必勝出陣の会」で、議員にゲン担ぎのカツカレーが振る舞われた。日本各地で行われた演説会では安倍氏が勝利という言葉を強調していた。甲子園球児が必勝を期してトンカツやカツカレーを食べる光景は微笑ましいが、国会議員が球児にあやかると同じくカツカレーを食し、しかもマスコミが興味本位に報道したのは、余りにも大人げなくもなかつた。政治は国家・国民のために支持と信任を得て使命をつくして負託に応えるべきで、ゲーム感覚で行われてはたまつたものではない。勝ち負けを争うのはスポーツに任せ、政治家は真摯・謙虚に行動し、国民の信頼に応えたいものだ。